



Newsletterは、東京YWCAの事業活動を皆様にお伝えするための広報紙です。毎回特集で取り上げる事業を中心に、東京YWCAの今をお届けします。

特集

きょうだい
支援

「きょうだい児」という言葉を知っていますか。病気や障がいを持つ人の兄弟姉妹のことです。東京YWCAでは、障がい児ときょうだい児を育てる親の声から生まれた「障がい児『きょうだいの会』」を2003年から家族支援の視点をもって展開しています。

“きょうだい児も家族も丸ごと支援”

きょうだい児が主役のプログラム「きらりんこ」の日、東京YWCA 板橋センターに子どもたちの元気な声が響き、きらきらした笑顔が輝きます。この日はみんな普段ため込んでいる気持ちとエネルギーを発散するように思いきり遊びます。

お迎えに合わせて親同士の情報交換「いどばた」を開き、きょうだい児と障がい児の子育てについて語り合います。

障がい児を育てる家族の生活は、介助や家庭での生活訓練・コミュニケーションの練習、こだわりへの配慮等、障がい児のことが優先になりがちです。その生活の中できょうだい児は「もっと自分のことも見てほしい」と思っている場合があります。そして親も、きょうだい児に過度に我慢をさせていないか、兄弟姉妹の障が

いのことをいつ・どう伝えるか、様々な迷いを常に抱えています。「きらりんこ」できょうだい児が思う存分楽しんでいる間、親は障がい児とじっくり過ごすことや、自分自身や家族のことを見つめる時間ができます。きょうだい児、障がい児、親それぞれが満足し気持ちが解放され、家族がまた明日から元気に毎日を送ることができます。

当事者の声から生まれた活動 東京YWCAが運営する強み

同年齢の子どもに比べて聞き分けが良く、その反面、とても甘えたがる、そんなきょうだい児の様子が気になり自主的に活動を始めた母たちの「きょうだい児支援を安定して長く続けたい」という強

い願いを受け、東京YWCAが事業として開始しました。青少年活動のノウハウや療育専門機関「東京YWCAキッズガーデン」との連携も活かして17年間続けてきました。

多様な仲間との豊かな交流が 子どもと家族の力になる

「きらりんこ」を含む東京YWCAの「障がい児『きょうだいの会』」は、子どもの障がいの種別も年齢も様々な家族が集うことも特徴です。他の家族との出会いで視界が開けた気がしたという家族の声もあります。私たち東京YWCAは、きょうだい児と親が仲間と出会う場をつくることで、悩みながらも家族が前に進んでいくことを支えたいと願っています。



3つの活動で支援しています

きょうだい児が主役「きらりんこ」

5歳～小学生を中心に10人前後が参加し、公園への外出や室内での工作、調理等、毎回内容は多彩です。思いやり、心の底から楽しんでもらうことを大切にボランティアのリーダーたちがプログラムを準備しています。当日はリーダーが子どもたち一人ひとりを受け止め、とことん付き合います。

親同士の情報交換の場「いどばた」

きょうだい児の子育て、障がい児との兄弟姉妹関係、子育ての仕方が違うことで生じる戸惑い、「きょうだい児の友達を家に招くときどうしてる？」など日常のことを語り合います。「きらりんこ」と同じ日に開くほか、平日の昼間にも行っています。幼児～成人と子の年齢層は多様なので、先輩の話から先の見通しがつき、先輩の立場の親はかつてを振り返ることで今を見つめ直すことができ、お互いに力が得られます。



家族だけではハードルが高いアウトドアをみんなで楽しめます

家族誰もが楽しむ「ふぁみりんこ」

家族同士が知り合い一緒に楽しもう、と年1回開催。恒例のバーベキューでは火の番をしながら、子育ての情報交換の機会が少ない父親たちの会話も自然に生まれています。



毎回気づきと学びがたくさん！

きょうだい児だから分かる魅力とやりがい

 寺島輝さん(きらりんこリーダー)

きらりんこにリーダーとして参加して3年が経ちます。毎回、子どもたちに全力で遊んでもらえるよう、事前のリーダー会で楽しさと安全を兼ね備えたプログラムを綿密に計画しています。プログラム終了時に「まだ帰りたくない!」と駄々をこねる姿を見ると「楽しんでもらえてよかった」という安堵感と、心地よい疲労感があり、リー

ダー冥利に尽きます。

私はきらりんこの子どもたちと同様にきょうだい児です。きょうだい児であることに劣等感はなかったけれど孤独感を抱いていたと思います。その孤独を埋めてくれる、もしくは気持ちを発散させてくれるきらりんこの意義の大きさに、リーダーとしてのやりがいや楽しさを感じています。

子ども時代の体験が人生を歩む力に

 山下奈津子さん(きょうだいの会立ち上げメンバー)

きょうだい児の子育てに不安や迷いを感じ仲間と情報を集めていた頃、「人知れず我慢を重ねているきょうだい児にも支援や同じ立場の仲間との出会いが必要」という成人したきょうだいの声に出会いました。板橋地域にきょうだいのための活動を!これは自分たちの子の代で終わらせてはいけない!そう考えYWCAに相談しました。初期の子どもたちは成人し自分の道を歩き始めています。「自分だけじゃない。仲間がいる」という思いがあれば進んでいける。彼らの晴れ晴れとした顔を見るとそう感じます。

娘の体験の幅が広がりました

 鈴木麻衣さん(いどばた・ふぁみりんこ参加者/きらりんこ保護者)

障がいのある次女を考慮して、長女はパパと2人でのお出掛けが多く、なかなかレジャーに連れて行ってあげられませんでした。そんな時、友人から紹介され参加したきらりんこ。元々人見知りのなかった娘は大勢の友達と1日遊べるのが楽しく、帰るのを嫌がるほど。毎回「次は何をやるのかなあ!」と楽しみにしています。



きらりんこ集合前に親子で

ご関心のある方はどうぞお問い合わせください

東京YWCA
板橋センター

☎ 03-5914-1854 ✉ itabashi@tokyo.ywca.or.jp
🏠 <http://www.tokyo.ywca.or.jp/child/family/>





私が平和をつくりだす。今、沖縄から学ぶこと

沖縄の民意に寄り添い、私たちができることは何か。2つの上映会から考えた

75年前、壮絶な地上戦を体験した沖縄。平和憲法が誕生しても、今も目の前にある理不尽な現実私たちが出来ることを考えさせられた上映会とトークでした。

『宮古島からのSOS』：6月20日の上映会&トークには、81人が参加。沖縄辺野古だけでなく、宮古島に作られた軍事施設とリゾート開発による人口増加は、島民のかけがえのない生命を脅かし始めていることを学びました。

『米軍が最も恐れた男～その名は、カメジロー』：米軍占領下の沖縄で、弾圧に屈せず市民の人権のために行動した瀬長亀次郎のドキュメンタリー。彼の行動にふれ、言葉を聞いた市民が団結し声をあげ、変化していく姿に自分も行動しようと勇気づけられた映画でした。当日7月27日は56人が参加。



左写真「宮古島からのSOS」上映会のゲストトークは毛利孝雄さん（沖縄大学地域研究所特別研究員）。フロアーとのやりとりもあり、宮古島出身の参加者からはふるさとの現状をなげく発言があった。



活動をイメージしながら講座をうけました

ボランティアリーダー養成講習

「ハラスメントしない・させない」 参加者だけでなくボランティアをも守るために

スポーツとジェンダーを専門とする高峰修先生を招き、ボランティアを対象に講座を行いました。ハラスメントの定義や起こる環境など事例検証の他、コーチングとアンガーマネジメントなど、人と接する時に何を意識していけば良いかを学びま

した。グループワークでは、青少年活動での場面を設定して、参加者が意見交換をして講師から具体的な対処方法をアドバイスしてもらいました。キャンプやその他の事業で活動する際に直結する内容で学びの多い講習となりました。

アーカイブプロジェクト進行中

貴重な史料を確実に将来に受け継ぐために

1905年設立以来の史料は、東京YWCAの歴史というだけでなく、女性史・教育史等の研究資料としても価値あるものです。

専門業者による撮影・デジタル化の後、データベースを作成します。史料保存のためのご寄付に引き続きご協力ください。



経年劣化で変退色が始まった写真

東日本大震災被災者支援事業 9年目を迎えて



いわきの家族5人と東京のお友だち

第9回支援バザーを6月29日に実施しました。今回も大勢の学生ボランティアが参加しました。開場前ミーティングで、今回の収益が、いわき市の重症心身障がい児ときょうだい児、児童養護施設の子どもたちと先生をキャンプに招待するために用いられると報告されると、学生ボラ

ンティアの間から拍手が沸き起こり、100人余りのボランティアに伝わっていききました。若い人たちの新鮮な受け止めに感化され、震災支援にふさわしい和やかな会となりました。次回、第10回は東京オリンピックのため、2020年5月30日（土）に実施します。

